

## カーボンニュートラル実現に向けた北海道の再エネ活用研究会（第5回）

### 議事要旨

日時：令和4年3月23日（水）15:00～16:00

場所：北海道経済産業局第1会議室・オンライン

出席委員（7名）

碓委員（座長）、竹中委員（オンライン）、徳永委員（オンライン）、渡邊委員、井澤委員、平本委員（オンライン）、世永委員

#### 議事概要

- ・ 事務局より、中間とりまとめ（案）について説明。
- ・ 事務局より、再生可能エネルギー導入に係る地方経済活性化調査事業について説明。
- ・ 委員により、これまでの研究会を振り返り意見交換が行われた。主な意見については以下の通り。

#### 意見交換

- ・ 本研究会において、ボリュームのある課題が提起された。国もスピード感を持って対応を進めており、自治体も当事者として捉えるようになってきたのではないかと。
- ・ 温泉熱利用、地熱発電など様々な手段があり、北海道内の市町村におけるゼロカーボンの数値としてまとめてみるのも手である。
- ・ 現状、再生可能エネルギーは化石エネルギーに比べると一般的にコストが高いと言われている。優先的に再エネを使うためにどうすれば良いかを考えなくてはならない。特に2050年というデッドラインを考える時には重要な課題になるのではないかと。
- ・ カーボンニュートラルの実現は相当難しく高いハードルであるため、地元企業・住民の理解や協力が必要不可欠。広域自治体も何ができるのかということを考えていかなければいけないと思っている。同規模の自治体における取組を参考にすることも勉強になるのではないかと。
- ・ 北海道における再エネの賦存エネルギーは非常に多く、まだまだこれから大きく活用できる道筋があると思う。また、省エネをどう進めていくかということは非常に重要。
- ・ 再エネは導入して終わりではなく、それを最大限活用し、長く持続させることが重要。そこに事業性を成立させるポイントがあると感じた。また、エネルギーマネジメントの取り組みについては、各種予測技術の精度を高めることが最適制御につながっていくと考えている。
- ・ 家庭の生ごみをコンポストやバイオガスで処理すれば、ゼロカーボンにつながる住民参加型の取り組みなのではないか。ディスプレイの普及などについても、全国で進めていただきたい。

以上